

令和6年第3回定例会スポーツ・文化の振興に関する特別委員会

12月10日-01号

◆今井俊哉 委員

資料22ページに「7 湯けむり全スポぐんまに向けての課題 ②」として「選手の育成・強化及び競技力向上」とある。これは大変重要な課題だと思う。「②市町村における障害者スポーツの推進」の御説明を聞き、施設の整備、用具の充足等については市町村にやっていただきたいし、また、選手自身が生活しているエリアの中で準備できることがとても重要だと思った。特に施設整備にはかなりのお金がかかるため、費用負担にはすごく大きな課題があると思うがどうか。

◎川原 参考人

今回の全スポについては、今年度、県において会場の施設整備や用具の充実が予算化され、進められている。それ以外の部分については、市町村の努力が必要になってくるが、市町村が障害者スポーツまで課題として捉えているかという温度差がある。しっかり取り組んでいただいている市町村もあるが、全スポを開催した県にヒアリングすると、国スポより全スポの方が県にとっては大変だと聞く。国スポについては市町村の協力が十分にあるが、全スポについては県が協会とともにしっかり取り組まないと、施設面でも意識面でもなかなか難しい。2029年に向けて市町村においても意識をしっかりと高めていただきたい。費用については予算が絡むため難しい点もあるかと思う。施設が駄目なら心のバリアフリーをしていただきたい。伊勢崎市のふれあいスポーツプラザのような施設が近くになくても、各地域の体育館において、フライングディスクやボッチャができるよう環境を整えることは、少し努力すればできる。みどり市においては、ボッチャを体育館で健常者も一緒に楽しめるような取組を行っていただいている。そのようなことも一歩ずつだができるという期待はしている。

◆今井俊哉 委員

並行して行われている国スポの話の中で、施設整備に関し、会場となる市町村は、民間団体などから借りる場合は、市町村において費用負担してほしいというような話があった。これだけでも結構な負担だが、加えて全スポの方も、となると更に負担が増すことになるので、よく意思疎通して県から支援を引き出すことが不可欠になってくると思うがどうか。

◎川原 参考人

例えば、民間のボウリング会場については、施設整備の対象外と取り扱われ、苦

慮しているとも伺っている。ボウリング会場は、エレベーターをはじめ、バリアフリー化が強く求められる。全スポの中でもボウリングは熱心な参加者が多くて、盛り上がる。特に市町村だけではなくて、民間の施設等も施設整備の対象と今後なり得るのであれば、是非お願いしたい。それが理想だと思っている。